

|         |                                      |
|---------|--------------------------------------|
| 氏名      | 小林 敏 郎                               |
| 学位の種類   | 医 学 博 士                              |
| 学位授与番号  | 甲 第 9 0 号                            |
| 学位授与の日付 | 昭和37年 3 月31日                         |
| 学位授与の要件 | 医学研究科外科系歯科学専攻<br>(学位規則第5条第1項該当)      |
| 学位論文題目  | 口腔剝離細胞の電子顕微鏡的研究                      |
| 論文審査委員  | 教授 渡 辺 義 男    教授 妹尾左知丸    教授 武 田 俊 光 |

#### 学 位 論 文 内 容 要 旨

口腔領域正常粘膜20例，扁平上皮癌18例について電子顕微鏡を応用し，各々の組織細胞，剝離細胞所見について検索した。

1) 組織細胞：Desmosome は正常に比し癌腫では非常に弱く，細胞間腔も大小不同のものが混在する。また両組織とも syncytium は形成していない。tonofilaments (TF) は正常細胞に著明で，endoplasmic reticulum (ER)，mitochondria (MT) は癌細胞に多い。核膜の微細構造は癌細胞において明瞭であり，核小体も癌細胞において著明であった。

2) 剝離細胞：細胞周縁の突起は正常細胞では規則的で，癌細胞では大小種々，不規則的派生を認める。TF，ER，MTは組織細胞所見に大体一致するが，癌剝離細胞では，その組織細胞所見に比し細胞内小器管の変性がやや強い。核においては微細構造は癌細胞によく保存されているが，高度に変性したものにおいては核膜の崩壊，消失をみた。

岡山医学会雑誌 第75巻1，2号（昭和38年2月28日付発行）に掲載予定

## 論文審査の結果の要旨

小林敏郎提出の「口腔剥離細胞の電子顕微鏡的研究」に関する学位論文につき審査した結果の要旨は次の通りである。

すなわち、口腔剥離細胞の検索に電子顕微鏡を導入し、正常口腔粘膜、ならびに口腔癌組織の電子顕微鏡的形態を解明し、更に正常口腔剥離細胞および、口腔癌剥離細胞との関連性を追求し、従来光学顕微鏡的に見出し得なかった微細構造の差異をみとめたと同時に、光学顕微鏡所見の解明に幾多の有力な手がかりを与えた。

以上の通り本論文は新しい知見に富み、学術上有益であり、著者は医学博士の学位を授与せられるべき学力を有するものと認める。